

子育て成功オープンセミナー part8
「我が子とどう向き合えば私立小学校に合格できるの？」
2010/7/4



ウエルストリーム

2010(C) Well Stream Inc. All Rights Reserved

「我が子とどう向き合えば私立小学校に合格できるの？」

本日のテーマ

「我が子とどう向き合えば私立小学校に合格できるの？」

受験を成功させる3つのポイント

- 1、私立小学校受験で求められているもの
- 2、家庭内教育の重要性
- 3、絶対にやってはいけないこと、やったほうが良いこと。

我が子とどう向き合えば私立小学校に合格できるの？

* 小学校受験は「子育て」の一部ですから、「子育て」を楽しみながらお子様を人として成長させ、合格させましょう！

★子育てで大切なこと★

私立小受験で直接
必要とされること

①頭が良いこと

- ②自立と自律
- ③絵・巧緻性
- ④運動能力
- ⑤親の力

- ・素直で優しい心
- ・誠実・正直
- ・謙虚・反省
- ・芸術面(音楽・美術)など
- ・健康・丈夫な身体
- ・向上心・発展
- ・その他

受験を成功させる3つのポイント

1、私立小学校受験で求められているもの

(1) 知育(学力、思考力、知識)－ペーパー試験、
造形(絵画)、口頭試問

(2) 徳育(人間力、自立、自律、しつけ)－行動観察、面接
観察(さとえ)

(3) 体育(体力)－運動

受験を成功させる3つのポイント

2、家庭内教育の重要性

(1) 将来立派な社会人とするための「しつけ」

(2) 家族一人一人もいっしょに学び、成長する

(3) しつけも学習も「習慣」から

受験を成功させる3つのポイント

3、絶対にやってはいけないこと、やったほうが良いこと、

(1)絶対にやってはいけないこと

①「〇〇ちゃんはこれこれこういう子なのよね。」と決めつけて周囲がレッテルをはると、ますますそうなる。✕

マイナス方向では **ラベリング理論**—アメリカの犯罪学の理論
無意識的にお子様にマイナスラベルを貼っていませんか？

⇔プラス方向では**ピグマリオン効果**、**エンデュミオン効果**

②失敗することを前提(仮定)とした行動(言動)をとる✕

不幸な結末を予言すること。—**予言の自己成就**

「やるだけやって、ダメだったらしょうがない。近くの〇〇小学校にいくだけ。」

「10月で落ちたら、11月にまた受けなくちゃいけないから、秋に旅行に行けないね。」

受験を成功させる3つのポイント

- ③根拠のない噂話や出所不明の未確認情報を本気にする。×
- ④お子様の受験についての意見の不一致や不安から家族で言い争いをする。×
例:「どうせ間に合わないから無駄だ。」
「はじめから小学校受験には反対だった。君があんまり言うから・・・」

(2) やったほうが良いこと

- ①日々の生活スケジュールの見直し(平常月と夏休みとを分けて)、
合格につながる良き学習習慣・生活習慣づくり。○
学習時間の絶対量の確保。量は質に転化する。
- ②志望校の校風を正確につかむ○
ーオープンスクールや説明会や学校行事に参加し、自らの五感で確認する。

受験を成功させる3つのポイント

③家族全員が協力して、お子様の**苦手科目、苦手分野の克服**をする。○

あるお母様の例:「うちの子、いくら言っても季節常識が憶えられないんですよ。」
—ずっと放っておいて、第1志望校で案の定「季節常識」が出て、
当日やはり出来ず、不合格。—それでいいんですか？

④受験勉強をきっかけとして、お子様の心も成長(「**自立**」と「**自律**」)し、
精神年齢があがってきた。○

「受験勉強をすることにより、以前より随分しっかりしてきた。お兄さん
(お姉さん)になってきた。」○

「我慢が大事」と言って、我慢強くなった。○

「すすんで自分のことは自分でできるようになってきた。」○

⑤支えている家族全員に対して感謝の心を持つようになった。○

—はじめは形から入っていたが、今は心がともなってきた。

幼児期にこそ身につけさせたい20の習慣。

－「合格する子育ての秘密は習慣にあった！」－

* 参考: 幼児期にこそ身につけさせたい4×5=20の習慣

(1) 生活習慣

- ①知っている人に会ったら先に挨拶する。
- ②何かをしてもらったら、「ありがとうございました。」という習慣
- ③早寝早起きの習慣
- ④自分のことは自分でする習慣
- ⑤お片付けを率先してする習慣

(2) 心の習慣

- ①褒められたときは、素直に喜びはするが、自慢をしたり、おごり高ぶりはしない。
「まだまだ努力が足りない。次も頑張ろう！」と思う習慣。
- ②叱られたときには、素直に「ごめんなさい。」と言い、自分のどこが悪かったのかを反省し、次は同じような失敗をしないと決意する習慣。
- ③失敗したとき、原因を自分以外に求めずに、「自分は何が足りなかったのだろう？」と自己反省し、改善に結びつける習慣。
- ④「うるさいな！分かっているよ！」ではなく、まずはその指導を受け入れ、素直に「そうしてみよう！」と思う習慣

幼児期にこそ身につけさせたい20の習慣。

－「合格する子育ての秘密は習慣にあった！」－

⑤童話や昔話を読んだとき「もし、自分だったらどう思うだろう？」とその相手の立場に立って考える習慣。豊かな感受性や優しさは相手の立場になって考え、相手を尊重することから生まれてくるものです。また、それが「人の気持ちのわかる人」に育てる秘訣です。

(3) 行動習慣

- ①目標を持つ。立てた目標を忘れない。日々反すう。
- ②それを達成するためには、何をいつまでにどうすれば良いのか？考える。
- ③実際のスケジュールに to do list(やるべきことリスト)を達成期限とともに書き入れる。
- ④実行した後、計画と実際とを検証し、修正をかけていく。
- ⑤①～④を行動習慣化する。

幼児期にこそ身につけさせたい20の習慣。

－「合格する子育ての秘密は習慣にあった！」－

(4) 学習習慣

- ①新しいことを学び、憶えることが好きになる習慣
- ②新しいことを学んだら、 $3 \times 7 = 21$ 方式で復習して身につける習慣
- ③日々の生活の中で学ぶ習慣(生活の全てが学び)
- ④学習したことを日々の生活の中で意図的に使う習慣(実践)
- ⑤知的好奇心を高める習慣

受験を成功させる3つのポイント

参考資料

ピグマリオン効果

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

ピグマリオン効果 (ピグマリオンこうか、英: pygmalion effect) とは、[教育心理学](#)における心理的行動の1つで、[教師](#)の期待によって[学習者](#)の[成績](#)が向上することである。なお、教師が期待しないことによって学習者の成績が下がることは[ゴーレム効果](#)と呼ばれる。ピグマリオン効果は、別名、[教師期待効果](#) (きょうしきたいこうか)、[ローゼンタール効果](#) (ローゼンタール効果) などとも呼ばれている。なお批判者は[心理学用語](#)でのバイアスである[実験者効果](#) (じっけんしゃこうか) の一種とする。

概要

ピグマリオン効果については、[人間](#)は期待された通りに成果を出す傾向があることの現れとされ、[1964年](#)に[アメリカ合衆国](#)の教育心理学者[ロバート・ローゼンタール](#)によって[実験](#)された。ピグマリオンという名称は、[ギリシャ神話](#)を収録した古代ローマの[オウィディウス](#)『[変身物語](#)』 (“Metamorphosen”、訳に『[転身物語](#)』とも) 第10巻に登場する[ピュグマリオン王](#)の恋焦がれた女性の彫像が、その願いに応えた[アプロディテ](#)神の力で人間化したと言う伝説に由来する。

受験を成功させる3つのポイント

参考資料

動物におけるピグマリオン効果 [\[編集\]](#)

1963年ローゼンタールとフォードが大学で心理学の実験で、学生たちにネズミを使った迷路実験をさせるのに、ネズミを渡す際に、これはよく訓練された利巧な系統のネズミ、これはまったくのろまなネズミとって渡したところ、その二つのグループの間で実験結果に差異が見られた。前者のネズミを渡された学生たちは、ネズミを丁寧に扱い、後者のネズミを渡された学生たちは非常にぞんざいに扱い、その両者のネズミへの期待度の違いが実験結果に反映されたものとローゼンタールは考えた。そこで、これは教師と学生の間でもありうるのではないかと考えた。

人間におけるピグマリオン効果 [\[編集\]](#)

1964年春、教育現場での実験として、サンフランシスコの[小学校](#)で、ハーバード式突発性学習能力予測テストと名づけた普通の知能テストを行ない、[学級担任](#)には、今後数ヶ月の間に成績が伸びてくる学習者を割り出すための検査であると説明した。しかし、実際のところ検査には何の意味もなく、実験施行者は、検査の結果と関係なく無作為に選ばれた児童の名簿を学級担任に見せて、この名簿に記載されている児童が、今後数ヶ月の間に成績が伸びる子供達だと伝えた。その後、学級担任は、子供達の成績が向上するという期待を込めて、その子供達を見ていたが、確かに成績が向上していった。報告論文の主張では成績が向上した原因としては、学級担任が子供達に対して、期待のこもった眼差しを向けたこと。さらに、子供達も期待されていることを意識するため、成績が向上していったと主張されている。この詳細がまとめられた報告書は、Rosenthal, R. & Jacobson, L.: "Pygmalion in the classroom", Holt, Rinehart & Winston 1968として刊行された。

受験を成功させる3つのポイント

参考資料

予言の自己成就<よげんのじこじょうじゅ> *self-fulfilling prophecy*

たとえ根拠のない予言(=噂や思い込み)であっても、人々がその予言を信じて行動することによって、結果として予言どおりの現実がつくられるという現象のこと。例えば、ある銀行が危ないという噂を聞いて、人々が預金を下ろすという行動をとることで、本当に銀行が倒産してしまう、というもの。このような社会現象のメカニズムを、アメリカの社会学者マートンは「予言の自己成就」と名付けた。これは、W・I・トマスの「もし人が状況を真実であると決めれば、その状況は結果において真実である」という定理をさらに展開した理論といえる。

ラベリング理論

社会学者H・S・ベッカーが構築した理論で、しばしば逸脱理論として適用される。ある人物の特性は、その人物の行為ゆえというよりも、周囲から貼られる特定のレッテルによって決められる。ひとたびレッテルが貼られると(ラベリング)、その人物はそのラベリングのもとにアイデンティティと行動パターンを形成するようになる、という理論。

大切にしている詩 Yes, I can.

できると思う心のどこかに
無理かもしれないと思う心があると
つぎからつぎに無理がでてくる
負けるかもしれないと思う心があると
そこであなたは負ける
もうだめだと思ふ心があると
そこからあなたはダメになる
失敗しそうだと思ふ心があると
あなたは確かに失敗する

成功している人をみなさい
最後まで成功を願い続けた人だけが
成功しているではないか
すべては「あなたの心」が決めるのだ

もしあなたがそうしたいのなら
あなたはその通りのことができる

さあ出発だ
強い人が必ず勝つとは限らない
すばしっこい人が勝つとは限らない
頭の良い人が勝つとは限らない

Yes, I can.

「わたしはできる。」
そう信じている人が結局は勝つのだ
Yes, I can